

吟 題	作 者	教 本	ページ
【あ】			
獄中作（行くに輿無く～）	秋月胤永	愛吟集	50
富士山（秦皇葉を採り～）	安積良齋	Ⅲ巻	18
乱を避け～（江湖に落魄して～）	足利義昭	Ⅲ巻	6
結婚祝（偕老盟成りて～）	安達漢城	慶弔	17
太平洋（日は浪より昇りて又波に沈む～）	安達漢城	Ⅱ巻	58
追悼の詩（人生は夢の如く亦烟の若し～）	安達漢城	慶弔	73
唐土にて月を見て詠みける（天の原～）	安部仲麻呂	朗詠集	22
唐土にて月を見て詠みける（天の原～）	安部仲麻呂	朗詠集	22
唐土にて月を見て詠みける（天の原～）	阿部仲麿	和歌上巻	50
唐土にて月を見て詠みける（天の原～）	阿部仲麿	和歌上巻	50
青の洞門（断崖絶壁～）	網谷一才	愛吟集	16
巡礼お鶴（杖を力にとぼとぼと～）	網谷一才	愛吟集	14
平の敦盛（笛声嫋嫋人の腸を断つ～）	網谷一才	Ⅱ巻	60
源義経（昔なつかし束稲の～）	網谷一才	愛吟集	12
春日の作（楊柳花飛んで～）	新井白石	Ⅰ巻	13
自ら肖像に題す（蒼顔鉄の如く～）	新井白石	Ⅲ巻	8
月やあらぬ（月やあらぬ春や昔の春ならぬ～）	在原業平	和歌上巻	62
駿河国うつの～（するがなるうつのやまべの～）	在原業平	和歌上巻	60
有間皇子、自ら傷みて～（家があれば～）	有間皇子	和歌上巻	12
舊年に春たちける日よめる（年のうちに～）	在原元方	和歌上巻	70
【い】			
秋夜丘二十二員外に寄す（君を懐うて秋夜に～）	韋 應物	Ⅰ巻	121
滁州の西澗（独り憐れむ幽草の澗辺に～）	韋 應物	Ⅲ巻	126
赤馬が関を過ぐ（長風浪を破って～）	伊形靈雨	Ⅱ巻	14
嗚呼忠臣楠子の墓（嗚呼忠臣～）	生田鐵石	Ⅱ巻	120
富士山（仙客来たり遊ぶ～）	石川丈山	Ⅰ巻	12
富士山（仙客来たり遊ぶ～）	石川丈山	慶弔	10
こだま（ふるさとの谷のこだまに～）	石川啄木	朗詠集	76
こだま（ふるさとの谷のこだまに～）	石川啄木	和歌下巻	132

たはむれに（たはむれに母を背負ひて～）	石川啄木	和歌下巻	136
友がみな（友がみなわれよりえらく見ゆる～）	石川啄木	和歌下巻	138
柳あをめる（やはらかに～）	石川啄木	朗詠集	74
やはらかに（やはらかに～）	石川啄木	和歌下巻	134
軽きに泣きて（たはむれに母を背負ひて～）	石川啄木	朗詠集	72
ふるさとの山（ふるさとの～）	石川啄木	朗詠集	70
ふるさとの山（ふるさとの～）	石川啄木	和歌下巻	130
貴者四章時勢に感ずる～（貴者は高きを忘れ～）	石田東陵	I 巻	34
性空上人のもとに詠みて～（暗きより暗き～）	和泉式部	和歌上巻	102
題しらず（寂しさに～）	和泉式部	和歌上巻	100
一条院の御時、～（いにしへの～）	伊勢大輔	和歌上巻	98
晩秋舟行（晴江秋静かにして～）	市河寛斎	I 巻	18
山中即事（雲来たつて千嶂合し～）	市村器堂	III 巻	48
客中（吟髪霜白～）	一休宗純	I 巻	8
桜花の詞（薄命能く伸ぶ～）	逸 名	I 巻	54
今朝の朝の（今朝の朝の露ひやびやと～）	伊藤左千夫	和歌下巻	72
一乗寺に遊ぶ（秋色蒼茫として～）	伊藤仁齋	I 巻	50
田園雑興（矮籬風圧して牽牛掛かり～）	伊藤東涯	I 巻	15
某楼に飲す（豪気堂堂～）	伊藤博文	II 巻	52
北海道巡遊中作（蹇蹇匪躬～）	伊藤博文	I 巻	31
火に焼かれ（火に焼かれ～）	井上円了	和歌下巻	68
山水（眞木ふかき～）	今井邦子	朗詠集	88
山水（眞木ふかき～）	今井邦子	和歌下巻	144
国体篇（邈たり二千六百秋～）	岩崎行親	愛吟集	53
【う】			
行水の（行水の捨てどころなき～）	上島鬼貫	俳句・俳文他	31
九月十三夜（霜は軍営に満ちて～）	上杉謙信	I 巻	9
梅溪の春暁（千巖～）	上 夢行	I 巻	85
入道摂政まかりたりけるに～（嘆きつつ～）	右大将道綱母	和歌上巻	88
新年雪裏の梅花～（春光初めて動けども寒～）	有智子内親王	I 巻	5
いく千代の（いく千代の～）	内柴御風	慶弔	24

なき人を（なき人をつひの別れと弔へど～）	内柴御風	慶弔	85
酒を勧む（君に勧む～）	于 武陵	I 卷	122
事に感ず（花開けば蝶枝に満つ～）	于 墳	III 卷	148
訣別（妻は病床に臥し～）	梅田雲濱	II 卷	32
わが身ありとは（君が世を～）	梅田雲濱	朗詠集	62
わが身ありとは（君が世を～）	梅田雲濱	和歌下卷	50
【え】			
秋の御歌に（真萩散る～）	永福門院	和歌下卷	8
夕の花を（花の上に～）	永福門院	和歌下卷	6
逸題（胡塵を掃うて～）	江藤新平	III 卷	25
夏の夜（雨晴れて庭上竹風多し～）	江馬細香	I 卷	25
京師にて家書を得たり（江水三千里～）	袁 凱	I 卷	126
春日雑詩（千枝の紅雨万重の～）	袁 枚	III 卷	143
赤壁（一面の東風百万の軍～）	袁 枚	I 卷	150
【お】			
鍾山即事（澗水声無く竹を繞りて流る～）	王 安石	III 卷	138
夜直（金炉香尽きて～）	王 安石	I 卷	109
元二の安西に使用するを送る（渭城の朝雨～）	王 維	I 卷	94
元二の安西に使用するを送る（渭城の朝雨～）	王 維	慶弔	42
酒を酌んで裴迪に与う（酒を酌んで君に与う～）	王 維	II 卷	168
送別（君を南浦に送りて涙糸の如し～）	王 維	慶弔	43
竹里館（独り坐す幽篁の裏～）	王 維	愛吟集	104
秘書晁監が日本に還るを送る（積水～）	王 維	I 卷	181
鹿柴（空山～）	王 維	II 卷	158
涼州詞（葡萄の美酒～）	王 翰	I 卷	92
十五夜月を望む（中庭地白くして樹鴉を～）	王 建	II 卷	144
新嫁の娘（三日の廚下に入り～）	王 建	愛吟集	105
鶴鶴楼に登る（白日山に依りて尽き～）	王 之渙	II 卷	157
涼州詞（黄河遠く上る～）	王 之渙	I 卷	91
高郵雨泊（寒雨の秦郵に夜船を泊す～）	王 士禛	I 卷	115
悼亡（藥爐経巻生涯を送る～）	王 士禛	慶弔	71

従軍行（秦時の明月漢時の関～）	王 昌齡	Ⅱ 卷	135
出塞行（白草原頭京師を望めば～）	王 昌齡	Ⅰ 卷	93
芙蓉楼にて辛漸を送る（寒雨江に連なって～）	王 昌齡	慶弔	41
太白楼に登る（昔聞く李供奉～）	王 世貞	Ⅰ 卷	160
滕王閣（滕王の高閣江渚にのぞむ～）	王 勃	Ⅱ 卷	164
遠山（山色～）	歐陽 脩	Ⅲ 卷	149
画眉鳥（百轉千声～）	歐陽 脩	Ⅰ 卷	107
豊楽亭に春を遊ぶ（紅樹青山～）	歐陽 脩	Ⅲ 卷	137
海に泛ぶ（陰夷原～）	王 陽明	Ⅱ 卷	153
灌山の小隠に題す（一たび家を移して～）	王 陽明	Ⅲ 卷	142
山中諸生に示す（溪辺流水に坐す～）	王 陽明	Ⅱ 卷	162
啾啾吟（知者は惑わず仁者は憂えず～）	王 陽明	Ⅱ 卷	199
睡起偶成（四十余年睡夢の中～）	王 陽明	Ⅱ 卷	152
夜坐（独り秋庭に坐すれば～）	王 陽明	Ⅲ 卷	166
夜天池に宿し～（昨夜月明～）	王 陽明	Ⅰ 卷	114
近江八景（堅田の落雁～）	大江敬香	Ⅰ 卷	52
「新古今集より」別れての（別れての～）	大江千里	慶弔	64
堀河院の御時～（照射する～）	大江匡房	和歌上卷	116
本朝文粹より	大江朝綱	慶弔	86
「新古今集より」夜もすがら（夜もすがら～）	大江匡衡	慶弔	82
亀山営中の作（大海波鳴って～）	大久保利通	Ⅲ 卷	29
晩の鐘（いつよりか入相のかねはなりつらむ～）	大隈言道	和歌下卷	60
四十七士（臥薪嘗胆幾辛酸～）	大塩平八郎	Ⅱ 卷	26
白菊の花をよめる（心あてに折らばや折らむ～）	凡河内躬恒	和歌上卷	74
世の中は（世の中は～）	大島蓼太	俳句・俳文他	6
山家（山里は松の声のみ～）	太田垣蓮月尼	和歌下卷	64
桶狭間を過ぐ（荒原古を吊う古墳の前～）	大田錦城	Ⅲ 卷	12
春日山懐古（春日山頭晚霞鎖～）	大槻磐溪	Ⅱ 卷	46
平泉懐古（三世の豪華～）	大槻磐溪	Ⅲ 卷	30
蛩を観る（柳外の流光～）	大槻磐溪	Ⅰ 卷	28
この世にし（この世にし楽しくあらば～）	大伴旅人	和歌上卷	26

三年春正月一日に～（新しき年の初めの～）	大伴家持	和歌上巻	44
三年春正月一日に～（新しき年の初めの～）	大伴家持	和歌上巻	44
二十三日に興に依りて作る歌（春の野に～）	大伴家持	和歌上巻	42
太宰帥大伴卿～（験なきものを思はずは～）	大伴旅人	和歌上巻	24
楠公子に訣るるの因（忠諫行われずんば～）	大沼枕山	I 巻	30
舟艇守の尺八（炎熱の夏は去りて秋風来たる～）	大野孤山	愛吟集	65
母の心（溽暑湘南～）	大野孤山	II 巻	128
還館口号（甲陽の美酒～）	荻生徂徠	I 巻	14
うづまさにてひとりながめて（太秦の～）	小沢蘆庵	和歌下巻	34
結婚祝ひの歌（天の戸の～）	小田観螢	朗詠集	92
結婚祝ひの詩（天の戸の真澄にならぶ二つ星～）	小田観螢	慶弔	23
成人式（心身を鍛錬して志始めて堅し～）	落合東郭	慶弔	16
菥寺にてよめる歌～（菥寺の菥おもしろし～）	落合直文	和歌下巻	70
つけ捨てし（つけ捨てし野火の烟のあか～）	尾上柴舟	和歌下巻	86
題しらず（花の色は～）	小野小町	和歌上巻	58
【か】			
薄随風（ひとかたに靡きそろひて花すすき～）	香川景樹	和歌下巻	36
花すすき（ひとかたに～）	香川景樹	朗詠集	56
柿本朝臣人麻呂の～（天離る鄙の長道ゆ～）	柿本人麻呂	和歌上巻	16
柿本朝臣人麻呂の歌一首（近江の海夕波千鳥～）	柿本人麻呂	和歌上巻	20
軽皇子、安騎の野に～（東の野にかぎろいの～）	柿本人麻呂	和歌上巻	18
東の野（東の～）	柿本人麻呂	朗詠集	12
安宅の関（暮鐘一点～）	角光嘯堂	愛吟集	39
合戦川中島（千曲の川霧～）	角光嘯堂	愛吟集	31
秋色信濃路（秋色一点信濃の天～）	角光嘯堂	愛吟集	72
三月三日重ねて虎邱に遊ぶ（細雨霏霏として～）	郭 麟孫	I 巻	146
江南故人に寄す（曾て銭塘に向いて住す～）	家 鉉翁	I 巻	123
鶯（なげやなげ～）	荷田春満	和歌下巻	22
袁氏の別業に題す（主人～）	賀 知章	I 巻	118
郷に回りて偶書す（少少家を離れて～）	賀 知章	II 巻	134
偶感（孤峰～）	勝 海舟	I 巻	43

偶成（天地生を育むに～）	勝 海舟	Ⅲ巻	89
桑乾を渡る（客舎へい州已に十霜～）	賈 島	慶弔	49
九月尽（九月尽遥かに能登の岬かな～）	加藤暁台	俳句・俳文他	34
結婚祝いの詩（今夜瑤台～）	加藤雍軒	Ⅱ巻	51
七重八重（七重八重花は咲けども山吹の～）	兼明親王	和歌上巻	80
山吹（七重八重～）	兼明親王	朗詠集	30
山吹（七重八重～）	兼明親王	朗詠集	30
江月（満江の明月満天の秋～）	龜田鵬齋	Ⅱ巻	15
漫成（丈夫生れて～）	蒲生君平	Ⅲ巻	49
鴨社歌合とて人々よみ侍りけるに～（石川や～）	鴨 長明	和歌上巻	152
嵐（しなのなる～）	賀茂真淵	和歌下巻	24
松島や（松島や松島や～）	河合曾良	俳句・俳文他	15
よもすがら（よもすがら秋風聞くや～）	河合曾良	俳句・俳文 他	25
生田に宿す（千歳の恩～）	菅 茶山	Ⅱ巻	17
先妣の十七回忌～（旧夢茫茫たり十七春～）	菅 茶山	Ⅰ巻	19
冬夜読書（雪は山堂を擁して樹影深し～）	菅 茶山	Ⅱ巻	16
備後三郎詩を櫻樹に～（馬に騎りては賊を～）	菅 茶山	Ⅲ巻	55
秋風の辞（秋風起こって白雲飛び～）	漢の武帝	Ⅰ巻	172
左遷せられて藍関に至り～（一封朝に奏す～）	韓 愈	Ⅰ巻	138
【き】			
関山月（秦嶺西に去れば～）	祇園南海	Ⅰ巻	16
鐘ひとつ（鐘ひとつ～）	其 角	俳句・俳文他	4
河内路上（南朝の古木～）	菊池溪琴	Ⅱ巻	48
新涼書を読む（秋は動く梧桐葉落つるの初～）	菊池三溪	Ⅱ巻	50
生誕を祝す（仙鶴一声翼を張りて鳴く～）	菊池東郭	慶弔	12
春の鳥（春の鳥～）	北原白秋	和歌下巻	110
偶成（一穂の寒燈～）	木戸孝允	Ⅰ巻	76
偶成（才子才を恃み～）	木戸孝允	Ⅱ巻	45
失題（去歳千軍我が疆に逼る～）	木戸孝允	Ⅲ巻	26
壇の浦夜泊（篷窓月落ちて眠りを成さず～）	木下犀潭	Ⅱ巻	38

故郷月（里は荒れて～）	木下長嘯子	和歌下巻	18
牡丹花は（牡丹花は～）	木下利玄	和歌下巻	128
春立ちける日詠める（袖ひちて～）	紀 貫之	和歌上巻	78
「新古今集より」年毎に（年毎に生ひ添ふ～）	紀 貫之	慶弔	11
櫻の花の散るをよめる（ひさかたの光のど～）	紀 友則	朗詠集	28
櫻の花の散るをよめる（ひさかたの光のど～）	紀 友則	和歌上巻	72
あつき日の（あつき日のあつき日の～）	木村岳風	俳句・俳文他	20
元旦初吟（初夢圓に迎う～）	木村岳風	慶弔	2
春日村行（郊外筈を牽けば一路通ず～）	木村岳風	Ⅲ巻	39
新近江八景（瀬田の唐橋石山寺～）	木村岳風	Ⅲ巻	95
新年祝いの詩（淑気乾坤万物新なり～）	木村岳風	慶弔	1
卒業を祝す（螢雪功を積んで智徳を磨き～）	木村岳風	慶弔	14
続け湯川博士に（少年老い易く学成り難し～）	木村岳風	愛吟集	58
謹みて蕪詩一篇を靈前に供す（共に吟道を～）	木村岳風	慶弔	74
なが霖や（なが霖やなが霖や～）	木村岳風	朗詠集	110
霖雨や（霖雨や霖雨や～）	木村岳風	俳句・俳文他	19
入学を祝す（玉若し磨かざれば～）	木村岳風	慶弔	13
福寿の詩（松竹梅花～）	木村岳風	愛吟集	5
細川玉子（群雄覇を争いし～）	木村岳風	Ⅲ巻	97
結婚祝いの詩（良縁成立して～）	木村岳風	Ⅱ巻	87
結婚祝の詩（良縁成立して～）	木村岳風	慶弔	18
海路の眺望を（浪の上に～）	京極為兼	和歌下巻	4
夏の歌の中に（枝に洩る朝日のかげの～）	京極為兼	和歌下巻	2
送別（水は柔らかにして器を逐い定め難きを～）	魚 玄機	慶弔	54
咸陽城の東楼（一たび高城に上れば～）	許 渾	Ⅲ巻	162
心かはり侍りける女に～（契りきな～）	清原元輔	和歌上巻	82
岩鼻や（岩鼻や～）	去 来	俳句・俳文他	29
【く】			
後夜仏法僧鳥を聞く（閑林独坐す～）	空 海	Ⅱ巻	3
遣懐（皇国の威名海外に鳴る～）	久坂玄瑞	Ⅲ巻	20
楠公を詠ず（日東に聖人有り～）	日柳燕石	Ⅲ巻	44

娑婆歌（縦い鉄鑊の湯を呑むとも～）	日柳燕石	愛吟集	47
山行同志に示す（路は羊腸に入って～）	草場佩川	Ⅱ巻	39
偶然の作（百金駿馬を買い～）	屈 復	Ⅱ巻	163
鉦鳴らし（鉦鳴らし～）	久保田空穂	和歌下巻	90
鎌倉懷古（鎌倉の幕府は何所～）	窪田空穂	朗詠集	97
鎌倉懷古（鎌倉の幕府は何所～）	窪田空穂	和歌下巻	92
述懷（慷慨山の如く～）	雲井龍雄	Ⅱ巻	42
客舎の壁に題す（斯の志を成さんと欲して～）	雲井龍雄	Ⅱ巻	41
棄児行（斯の身飢ゆれば～）	雲井龍雄	Ⅱ巻	102
【け】			
暁に順城門を出で何太虚を～（歩して出ず～）	掲 傒斯	Ⅰ巻	124
湘夫人の詠（木蘭芙蓉芳州に満つ～）	元 好問	Ⅰ巻	187
軍城早秋（昨夜秋風～）	嚴 武	Ⅰ巻	99
【こ】			
秋日（返照閭巷に入る～）	耿 滄	Ⅰ巻	120
垓下の歌（力山を抜き～）	項 羽	Ⅰ巻	162
家書を得たり（未だ書中の語を読まずして～）	高 啓	Ⅰ巻	125
胡隱君を尋ね（水を渡り復水を渡り～）	高 啓	Ⅱ巻	161
梅花（瓊姿只合に～）	高 啓	Ⅱ巻	178
塞上にて吹笛を聞く（雪浄くして～）	高 適	Ⅰ巻	97
董大に別る（十里の黄雲白日曛れ～）	高 適	慶弔	44
大風の歌（台風起こりて雲飛揚す～）	高 祖	Ⅰ巻	163
除夜の作（旅館の寒灯独り眠らず～）	高 適	Ⅲ巻	124
古に擬す（子を生まば～）	河野鉄兜	Ⅲ巻	43
芳野（山禽叫び断えて～）	河野鐵兜	Ⅱ巻	37
祝賀の詞（四海波平かにして～）	河野天籟	慶弔	8
大楠公（赤坂の城千早の屯～）	河野天籟	Ⅱ巻	85
高山彦九郎を憶う（白雲鎖す処英魂を鎮む～）	河野天籟	愛吟集	3
山亭の夏日（緑樹陰濃やかにして～）	高 駢	Ⅲ巻	135
虞姫（大王真に英雄～）	呉 永和	Ⅰ巻	127
紅葉館にて饗飲席上率に賦す（七十の青涯～）	國分青厓	Ⅰ巻	35

山中の歌（余に問う山中に棲むこと幾年ぞと～）	国分青厓	Ⅲ巻	37
大江山（大江山生野の道の～）	小式部内侍	和歌上巻	104
塞下の曲に和し奉る（胡兒塞月～）	巨勢識人	Ⅲ巻	3
秋日友人に別る（林葉翩翩秋日暎れ～）	巨勢識人	Ⅰ巻	6
をのこども詩を作りて～（見わたせば～）	後鳥羽院	和歌上巻	164
翌もあり（翌もありあさてもありと～）	小林一茶	俳句・俳文他	89
老木桜（或る山寺に～）	小林一茶	俳句・俳文他	86
老の身は（老の身は～）	小林一茶	俳句・俳文他	97
是がまあ（是がまあ～）	小林一茶	俳句・俳文他	45
直なるも（直なるも曲がるも同じ世の中ぞ～）	小林一茶	俳句・俳文他	91
露の世は（露の世は露の世ながら～）	小林一茶	俳句・俳文他	35
ともかくも（ともかくもともかくもあなた～）	小林一茶	俳句・俳文他	46
念仏坊（追風や～）	小林一茶	俳句・俳文他	95
降りながら（降りながら～）	小林一茶	俳句・俳文他	93
目出度さも（目出度さも～）	小林一茶	俳句・俳文他	11
瘦蛙（瘦蛙～）	小林一茶	朗詠集	108
瘦蛙（瘦蛙～）	小林一茶	俳句・俳文他	9
雪五尺（これがまあ～）	小林一茶	朗詠集	109
我と来て（我と来て～）	小林一茶	朗詠集	107
我と来て（我と来て～）	小林一茶	俳句・俳文他	10
【さ】			
「三夕の歌」 ころなき（心なき身にもあは～）	西行法師	和歌上巻	126
「三夕の歌」 ころなき（心なき身にもあは～）	西行法師	和歌上巻	126
「三夕の歌」 ころなき（心なき身にもあは～）	西行法師	朗詠集	36
「三夕の歌」 ころなき（心なき身にもあは～）	西行法師	朗詠集	36
題しらず（津の国の～）	西行法師	和歌上巻	128
題しらず（寂しさに～）	西行法師	和歌上巻	130
なでしこ（かきわけて折れば露こそ～）	西行法師	朗詠集	38
なでしこ（かきわけて折れば露こそ～）	西行法師	和歌上巻	124
陸奥の国に平泉に～（ききもせず～）	西行法師	和歌上巻	122
黄鶴楼（昔人已に黄鶴に乗じて去り～）	崔 顥	Ⅰ巻	130

一声の仁（文を学びて主無ければ～）	西郷南洲	Ⅲ巻	27
偶感（幾度か辛酸を歴て～）	西郷南洲	Ⅱ巻	44
月照十七回忌（相約して淵に投ず～）	西郷南洲	Ⅱ巻	43
獄中感有り（朝に恩遇を蒙りて～）	西郷南洲	Ⅱ巻	81
桜井の駅（慇懃たる遺訓～）	西郷南洲	Ⅲ巻	28
失題（一貫唯唯として諾す～）	西郷南洲	Ⅰ巻	60
児島高德桜樹に～（踏破る千山～）	斎藤監物	Ⅱ巻	71
死にたまふ母「のど赤き」（のど赤き）	斎藤茂吉	和歌下巻	106
死にたまふ母「のど赤き」（のど赤き）	斎藤茂吉	和歌下巻	106
死にたまふ母「みちのくの～」	斎藤茂吉	和歌下巻	104
死にたまふ母「みちのくの～」	斎藤茂吉	和歌下巻	104
城東の荘に宴す（一年初めて一年の春有り～）	崔 敏童	Ⅱ巻	133
泉岳寺の作（山岳崩すべし海翻すべし～）	坂井虎山	Ⅲ巻	14
題しらず（ももしきの～）	作者不詳	和歌上巻	40
題しらず（ほのぼのと～）	作者不詳	和歌上巻	52
題しらず（世の中は～）	作者不詳	和歌上巻	54
吉田義卿を送る（之の子霊骨有り～）	佐久間象山	Ⅲ巻	114
天姥山（天姥山頭秋月明らかに～）	佐久間象山	Ⅲ巻	19
漫述（誇る者は汝の～）	佐久間象山	Ⅰ巻	41
吟友の死を悼む（惇惇友に接して～）	佐佐木岳甫	慶弔	79
祝事（今日紅を繞らして～）	佐佐木岳甫	慶弔	7
送別の詩（郷土の夜風情を知らず～）	佐佐木岳甫	慶弔	60
丹頂の舞（寒山映し出す青湖の水～）	佐佐木岳甫	愛吟集	7
悲恋毬藻の歌（秘煙千歳～）	佐佐木岳甫	愛吟集	75
石狩川（長江嶽を～）	佐佐木岳甫	愛吟集	8
春（春ここに～）	佐佐木信綱	朗詠集	90
春（春ここに～）	佐佐木信綱	和歌下巻	82
毛越寺懐古（大門の～）	佐佐木信綱	和歌下巻	78
大和ぶり（ゆく秋の～）	佐佐木信綱	和歌下巻	80
吉次峠の戦（君見ずや吉次の陰は～）	佐佐友房	Ⅱ巻	113
田原坂～（雨は戦袍を撲ち風沙を捲く～）	佐佐友房	Ⅲ巻	34

春夕（月は訪れて梅花好主と為り～）	佐藤一斎	Ⅲ巻	16
「陸游作」雑興（草鋤けど春は萌え萌ゆ～）	佐藤春夫訳	朗詠集	138
出郷の作（決然国を去って～）	佐野竹之助	Ⅱ巻	35
青春（青春とは人生の或る期間を～）	サミエルワルマン	俳句・俳文他	127
白虎隊（少年団結す～）	佐原盛純	Ⅰ巻	81
【し】			
五十首歌奉りし時、月の前に～（大江山～）	慈 円	和歌上巻	156
「新古今集より」そこはかと	慈 円	慶弔	83
題しらず（おほけなく～）	慈 円	和歌上巻	160
春のころ大乘院より～（みせばやな～）	慈 円	和歌上巻	158
岳風先生を弔う（憶う君が意気～）	塩谷節山	慶弔	77
銚港雑詠（鉅巖怒浪を排し～）	塩谷青山	Ⅲ巻	47
慶雲三年丙午、難波宮に～（葦辺行く鴨の～）	志貴皇子	和歌上巻	22
静 若宮八幡へ参詣の事	静御前	和歌上巻	132
しづのをだまき（しづやしづしづのをだまき～）	静御前	朗詠集	34
勸学の歌（子を養いて教えざるは～）	司馬 光	Ⅰ巻	184
初夏（四月清和雨乍ち晴れ～）	司馬 光	Ⅰ巻	108
月夜禁垣の外を歩む（上苑の西風～）	柴野栗山	Ⅲ巻	11
富士山（誰か東海の水を～）	柴野栗山	Ⅰ巻	58
諏訪湖畔（みづうみの氷は解けてなほ寒し～）	島木赤彦	朗詠集	78
諏訪湖畔（みづうみの氷は解けてなほ寒し～）	島木赤彦	和歌下巻	88
秋風の歌（しづかに～）	島崎藤村	朗詠集	118
秋風の歌（しづかに～）	島崎藤村	俳句・俳文他	104
草枕（夕波くらく啼く千鳥～）	島崎藤村	俳句・俳文他	100
小諸なる古城のほとり（小諸なる古城の～）	島崎藤村	俳句・俳文他	107
不二ひとつ（不二ひとつ～）	島崎蕪村	俳句・俳文他	17
千曲川旅情のうた（昨日またかくてありけり～）	島崎藤村	俳句・俳文他	110
富士の山の歌あまた～（ふじのねに～）	下河辺長流	和歌下巻	20
将に東遊せんとして壁に～（男児志を立てて～）	釋 月 性	Ⅱ巻	31
壁に題す（男児志を立てて郷関を出ず～）	釋 月 性	Ⅱ巻	31
五十首歌奉りし時（村雨の霧もまだ干ぬ～）	寂蓮法師	和歌上巻	140

左大臣家「十楽の心」(むらさきの雲ちに～)	寂蓮法師	和歌上巻	142
左大臣家「十楽の心」(むらさきの雲ちに～)	寂蓮法師	和歌上巻	142
「三夕の歌」さびしさは(寂しはその色としも～)	寂蓮法師	和歌上巻	138
「三夕の歌」さびしさは(寂しはその色としも～)	寂蓮法師	和歌上巻	138
「三夕の歌」さびしさは(寂しはその色としも～)	寂蓮法師	朗詠集	40
「三夕の歌」さびしさは(寂しはその色としも～)	寂蓮法師	朗詠集	40
秋日弟を懐う(生涯汝の自ら樵蘇するを～)	謝 榛	I 巻	148
斎中読書(昔余京華に遊べども～)	謝 靈運	I 巻	178
滝落ちて(滝落ちて滝落ちて～)	秋桜子	俳句・俳文他	21
勸学の文(謂う勿れ今日学ばずして～)	朱 熹	II 巻	174
偶成(少年老い易く～)	朱 熹	II 巻	150
湖辺の荘に題す(十里の青山～)	朱 熹	I 巻	144
酔うて祝融峰を下る(我来たつて万里～)	朱 熹	II 巻	149
芳野懐古(暁ならんと欲するの溪山～)	正 墻適處	I 巻	27
宇文六を送る(花は垂楊に映じて～)	常 建	慶弔	40
塞下の曲(北海の陰風～)	常 建	I 巻	98
暮山雪(渡りかね雲も夕をなほたどる～)	正 徹	和歌下巻	14
聖徳太子～(級照るや片岡山に飯に飢ゑて～)	聖徳太子	和歌上巻	8
清夜の吟(月天心に到るの処～)	邵 雍	III 巻	150
百首歌奉りし時、春の歌(山深み～)	式子内親王	和歌上巻	144
百首歌奉りし時、秋の歌(桐の葉も～)	式子内親王	和歌上巻	146
いのちだに「古今集より」	白 女	慶弔	63
山間の秋夜(夜色秋光～)	眞 山民	III 巻	141
山中の月(我は愛す山中の月～)	眞 山民	I 巻	158
山中の雲(我は愛す山中の雲～)	眞 山民	II 巻	180
京に入る使いに逢う(故園東に望めば～)	岑 参	I 巻	100
胡笳の歌(君聞かずや胡笳の声～)	岑 参	II 巻	192
磧中の作(馬を走らせて西来天に到らんと～)	岑 参	III 巻	125
竜池篇(竜池竜躍つて～)	沈 佺期	III 巻	152
古意(蘆家の少婦鬱金の堂～)	沈 佺期	I 巻	128
【す】			

兵児謡（負くれば是れ賊～）	末松謙澄	Ⅲ巻	93
海（海ならず～）	菅原道眞	朗詠集	24
海（海ならず～）	菅原道眞	和歌上巻	68
九日後朝同に愁思を～（丞相年を渡りて～）	菅原道眞	Ⅰ巻	46
自詠（家を離れて三四月～）	菅原道眞	Ⅱ巻	61
秋夜（黄菱の顔色白霜の頭～）	菅原道眞	Ⅱ巻	63
門を出でず（一たび謫落して～）	菅原道眞	Ⅱ巻	65
九月十日（去年の今夜～）	菅原道眞	Ⅰ巻	7
東風吹かば（東風吹かば匂ひおこせよ～）	菅原道眞	朗詠集	26
流され侍りける時～（東風吹かば匂ひ～）	菅原道眞	和歌上巻	66
流され侍りける時～（東風吹かば匂ひ～）	菅原道眞	和歌上巻	66
八月十五夜月前に旧を語る（秋月は知らず～）	菅原道眞	Ⅱ巻	4
自訟（岳に登りて天下を小とし～）	杉浦重剛	Ⅰ巻	44
岩崎谷の洞に題す（百戦功無し～）	杉 聴雨	Ⅱ巻	57
「古事記より」八雲立つ（八雲立つ～）	須佐之男命	和歌上巻	2
広瀬中佐（杉野杉野～）	鈴木豹軒	愛吟集	68
晩春絶句（晴に非ず雨に非ず～）	住谷天来	愛吟集	4
【せ】			
偶成（富貴功名～）	瀬川雅亮	Ⅲ巻	38
雨後楼に登る（一天の過雨～）	絶海中津	Ⅲ巻	4
姑蘇台（姑蘇台上～）	絶海中津	Ⅰ巻	48
逢坂の関に庵室を造りて住み～（これやこの～）	蟬丸	和歌上巻	96
帰雁（瀟湘より何事ぞ～）	錢 起	Ⅰ巻	103
【そ】			
虞美人草（鴻門の玉斗紛として雪の如し～）	曾 鞏	Ⅲ巻	182
桜花行（帝桜花の国を造って～）	副島蒼海	Ⅰ巻	64
己亥の歳（沢国の江山～）	曹 松	Ⅲ巻	136
「古今集より」山風に（山風に～）	僧正遍昭	慶弔	61
七歩の詩（豆を煮るに豆萁を燃く～）	曹 植	Ⅰ巻	164
松の葉の（松の葉の二葉一葉に色かえず～）	相馬御風	慶弔	20
恵崇の春江曉景（竹外の桃花～）	蘇 軾	愛吟集	108

春夜（春宵一刻値千金～）	蘇 軾	Ⅱ 卷	148
初冬の作（荷は尽きて已に雨を撃ぐるの～）	蘇 軾	Ⅰ 卷	110
太白山下早行して～（馬上に残夢を続き～）	蘇 軾	Ⅰ 卷	156
中秋の月（暮雲収まり尽くして清寒溢る～）	蘇 軾	Ⅲ 卷	140
望湖楼の酔書（黒雲墨を翻して～）	蘇 軾	Ⅲ 卷	139
題しらず（なげやなげ～）	曾禰好忠	和歌上卷	92
題しらず（山城の～）	曾禰好忠	和歌上卷	94
【た】			
題しらず（遙かなる～）	大貳三位	和歌上卷	110
江村晚眺（江頭の落日平沙を照らす～）	戴 復古	Ⅰ 卷	112
「拾遺集より」たよりあらば（たよりあらば～）	平 兼盛	慶弔	65
天曆の御時の歌合（忍ぶれど色に出でにけり～）	平 兼盛	和歌上卷	84
獄中作（君見ずや死して忠鬼と為る～）	高杉晋作	Ⅱ 卷	100
焦心録後に題す（内憂外患吾が州に迫る～）	高杉晋作	Ⅲ 卷	23
木村岳風師の墓を訪ぬ（愛宕山中～）	高田陶軒	慶弔	78
月夜三叉江に舟に泛ぶ（三叉中断す～）	高野蘭亭	Ⅱ 卷	13
遠山に（遠山に日の当りたる枯野かな～）	高浜虚子	俳句・俳文他	48
流れ行く（流れ行く大根の葉の～）	高浜虚子	俳句・俳文他	49
白頭吟（皚たること～）	卓 文君	Ⅰ 卷	166
人の長崎に帰るを送る（懶雲夢の如く～）	竹添井井	慶弔	58
双殉行（戦雲城を圧して城壊れんと欲す～）	竹添井井	Ⅱ 卷	116
偶作（麤殺す江南～）	武田信玄	Ⅱ 卷	6
新正口号（淑気未だ融らず春尚遅し～）	武田信玄	Ⅲ 卷	5
偶成（三十年來～）	武林唯七	Ⅲ 卷	7
芋の露（芋の露～）	蛇 笏	俳句・俳文他	40
白雲山に登る（白雲山上～）	太宰春臺	Ⅱ 卷	11
春よみける歌の中に（すすくと～）	橘 曙覧	和歌下卷	52
人あまたありて～（赤裸の～）	橘 曙覧	和歌下卷	54
人あまたありて～（赤裸の～）	橘 曙覧	和歌下卷	54
赤心報国（国を思ひ寝られざる夜の霜の色～）	橘 曙覧	和歌下卷	58
獨楽吟（たのしみは三人の児どもすすくと～）	橘 曙覧	和歌下卷	56

霞中春雨（隅田川蓑着て下す～）	橘 千蔭	和歌下巻	32
同窓会の歌（満筵の佳客是れ同輩～）	谷口雲泉	慶弔	15
うしろ姿の（うしろ姿の～）	種田山頭火	俳句・俳文他	55
うどん供へて（うどん供へて～）	種田山頭火	俳句・俳文他	56
分け入っても（分け入っても～）	種田山頭火	俳句・俳文他	53
【ち】			
桜散る「新古今集より」（桜散る春の末には～）	中納言兼輔	慶弔	81
長安主人の壁に題す（世人交わりを結ぶに～）	張 謂	Ⅱ巻	143
江楼にて感を書す（独り江楼に上りて～）	趙 嘏	Ⅱ巻	147
江楼にて感を書す（独り江楼に上りて～）	趙 嘏	慶弔	69
鏡に照らして白髪を見る（宿昔青雲の志～）	張 九齡	Ⅲ巻	144
楓橋夜泊（月落ち烏啼いて～）	張 繼	Ⅰ巻	102
辺詩（五原の春色～）	張 敬忠	Ⅲ巻	119
春江花月の夜（春江の潮水海に連なって～）	張 若虞	Ⅲ巻	173
秋思（洛陽城裏秋風を見る～）	張 籍	Ⅲ巻	128
孟寂を哭す（曲江院裏～）	張 籍	慶弔	70
東城（野店の桃花紅粉の姿～）	趙 孟頫	Ⅰ巻	113
朝顔に（朝顔に朝顔に釣瓶とられて貰ひ水～）	千代女	俳句・俳文他	32
送別（落葉聚って還た散ず～）	陳 子龍	慶弔	55
【つ】			
暁に発す（残月の滴露～）	月田蒙斎	Ⅲ巻	22
結婚祝いの詩（泰山の竹～）	土屋竹雨	Ⅱ巻	59
結婚祝いの詩（泰山之竹～）	土屋竹雨	慶弔	22
原爆行（怪光一綫蒼旻より下る～）	土屋竹雨	Ⅱ巻	124
吉野上市（ふるさとに～）	土屋文明	和歌下巻	142
【て】			
秋日偶成（閑来事として従容たらざるは～）	程 明道	Ⅱ巻	172
帰省（幾度か天蓋～）	狄 仁傑	Ⅱ巻	166
雪中梅を見る（寒蓑立ち尽くす水の涯～）	寺門靜軒	Ⅲ巻	24
比叡山中堂建立の時（阿耨多羅～）	伝教大師	和歌上巻	56
題しらず（秋の田の 仮庵の庵の～）	天智天皇	和歌上巻	10

【と】			
星落秋風五丈原（○山悲秋の風更けて～）	土井晩翠	朗詠集	124
園田の居に帰る（少くして～）	陶 潜	I 卷	174
勸学（盛年重ねて来たらず～）	陶 潜	II 卷	154
雑詩（人生根蒂無く～）	陶 潜	III 卷	186
四時（春水四沢に満ち～）	陶 潜	II 卷	155
希望（沖の汐風吹きあれて白波いたく～）	土井晩翠	朗詠集	122
指をもて（指をもて～）	土岐善麿	和歌下卷	112
りんてん機（りんてん機～）	土岐善麿	和歌下卷	114
弘道館にて梅花を賞す（弘道館中千樹の梅～）	徳川齊昭	II 卷	34
大楠公（豹は死して皮を留む～）	徳川齊昭	II 卷	33
水戸八景（雪時嘗て賞す～）	徳川齊昭	II 卷	69
潮頭（太平洋外水滔滔～）	徳富蘇峰	III 卷	40
霊山（三十六峰～）	徳富蘇峰	III 卷	41
金縷の衣（君に勧む惜しむ莫れ～）	杜 秋娘	III 卷	132
湘江を渡る（遅日園林昔遊を悲しむ～）	杜 審言	I 卷	90
湘江を渡る（遅日園林昔遊を悲しむ～）	杜 審言	慶弔	39
飲中八仙歌（知章が馬に騎るは～）	杜 甫	II 卷	188
春望（国破れて山河在り～）	杜 甫	I 卷	154
蜀相（丞相の祠堂何れの処にか尋ねん～）	杜 甫	III 卷	158
絶句（江碧にして鳥逾白く～）	杜 甫	II 卷	159
登高（風急に天高くして猿嘯哀し～）	杜 甫	III 卷	160
登楼（花は高楼に近うして客心を傷ましむ～）	杜 甫	I 卷	132
貧交行（手を翻せば雲と作り～）	杜 甫	I 卷	165
笛を吹く（笛を吹く秋山～）	杜 甫	II 卷	170
烏江亭に題す（勝敗は兵家も～）	杜 牧	II 卷	146
寒江（溶溶漾漾～）	杜 牧	愛吟集	106
江南の春（千里鶯啼いて緑紅に映ず～）	杜 牧	II 卷	145
山行（遠く寒山に上れば石径斜なり～）	杜 牧	I 卷	105
秦淮に泊す（煙は寒水を籠め月は沙を籠む～）	杜 牧	III 卷	133
清明（清明の時節雨紛紛～）	杜 牧	III 卷	134

贈別（多情は却って似たり総べて情無きに～）	杜 牧	慶弔	52
露と落ち（露と落ち露と消えにしわが身かな～）	豊臣秀吉	和歌下巻	16
【な】			
西紅海舟中の作（煙は鎖す～）	中井櫻洲	Ⅲ巻	32
甲戌の冬舟中に月を～（念慮に一毫も差えば～）	中江藤樹	Ⅰ巻	37
忍字に題す（一たび忍べば七情～）	中江藤樹	Ⅱ巻	7
戊子の夏諸生と月を～（清風座に満ち～）	中江藤樹	Ⅱ巻	8
松前城下の作（海城の寒柝～）	長尾秋水	Ⅰ巻	24
さしかはす（さしかはす枝むつまじく～）	中島広陰	慶弔	25
白埴の（白埴の瓶こそよけれ～）	長塚 節	和歌下巻	102
降る雪や（降る雪や～）	中村草田男	俳句・俳文他	50
あはれ子の（あはれ子の夜寒の床の～）	中村汀女	俳句・俳文他	41
春日偶成（道う莫かれ風塵に老ゆと～）	夏目漱石	Ⅲ巻	46
【に】			
寒梅（庭上の一寒梅～）	新島 襄	Ⅰ巻	42
山を見る（山を看れば～）	新島 襄	Ⅲ巻	45
城山（孤軍奮闘囲みを破って還る～）	西 道仙	Ⅱ巻	55
朗詠（声気堂堂～）	新田 興	Ⅰ巻	4
貢物許されて国富めるを～（たかき屋に～）	仁徳天皇	和歌上巻	6
【の】			
みちのくに～（都をば～）	能因法師	和歌上巻	112
凱旋（王師百万～）	乃木希典	Ⅲ巻	36
金州城下の作（山川草木～）	乃木希典	Ⅰ巻	32
神州（峻嶒たる富岳千秋に聳ゆ～）	乃木希典	Ⅱ巻	54
陣中の作（稀に柳楊有るも竹梅無し～）	乃木希典	Ⅲ巻	35
爾靈山（爾靈山は陰なれども～）	乃木希典	Ⅱ巻	53
あかつき方に出で立つ時に（をしからぬ～）	野村望東尼	和歌下巻	62
【は】			
昨日にまさる～（昨日にまさる戀しさの～）	萩原朔太郎	朗詠集	114
菊花（一夜新霜～）	白 居易	Ⅲ巻	130
香炉峰下新に山居を～（日高く睡り足りて～）	白 居易	Ⅰ巻	140

酒に対す（蝸牛角上～）	白 居易	Ⅲ卷	129
慈烏夜啼く（慈烏其の母を失い～）	白 居易	Ⅱ卷	195
草堂に別る（三間の茅舎山に向って開き～）	白 居易	慶弔	50
八月十五夜～（銀台金闕～）	白 居易	Ⅰ卷	142
暮立	白 居易	Ⅲ卷	131
夜雪（已訝る～）	白 居易	Ⅲ卷	147
逸題（飛雨蕭蕭孤雁鳴く～）	橋本左内	愛吟集	25
防人の歌（父母が頭搔き撫で～）	丈部稻麻呂	和歌上卷	46
笛を聞く（二月の梅花～）	服部南郭	Ⅲ卷	53
夜墨水を下る（金竜山畔～）	服部南郭	Ⅰ卷	17
梅一輪（梅一輪～）	服部嵐雪	俳句・俳文他	5
武野の晴月（武陵の秋色～）	林 羅山	Ⅰ卷	11
別詩（洛陽城の～）	范 雲	Ⅱ卷	156
【ひ】			
塾生に示す（君が曹士為らんと欲せば～）	尾藤二洲	Ⅰ卷	70
早に深川を発す（月落ちて人煙曙色分かる～）	平野金華	Ⅱ卷	10
別れても（別れても～）	平野国臣	慶弔	67
夏初桜祠に遊ぶ（花開きて万人集い～）	広瀬旭荘	Ⅰ卷	40
家兄に寄せて志を言う（勤王の大義～）	広瀬武夫	Ⅲ卷	33
正氣の歌（死生命有り論ずるに足らず～）	広瀬武夫	Ⅱ卷	109
桂林荘雜詠諸生に示す（道うことを休めよ他郷～）	広瀬淡窓	Ⅰ卷	22
桂林荘雜詠諸生に示す（遥かに思う白髪～）	広瀬淡窓	Ⅱ卷	28
筑前城下の作（伏敵門頭浪天を拍つ～）	広瀬淡窓	Ⅱ卷	67
別府（楼上～）	広瀬淡窓	慶弔	57
【ふ】			
花朝澱江を下る（桃花水暖かにして～）	藤井竹外	Ⅲ卷	21
芳野（古陵の松柏～）	藤井竹外	Ⅰ卷	26
新年（客来って笑う野人の家に似たりと～）	藤井竹外	慶弔	4
「万葉集より」新しき（新しき年のはじめの～）	葛井諸会	慶弔	6
志を言う（俯しては郷国を思い～）	藤田東湖	Ⅰ卷	21
述懐（三たび死を決して～）	藤田東湖	Ⅲ卷	74

瓢やの歌（瓢や瓢や～）	藤田東湖	Ⅲ巻	77
文天祥の正気の歌に和す（天地正大の気～）	藤田東湖	Ⅲ巻	101
将に小梅村の～（青年此の地～）	藤田東湖	Ⅲ巻	15
夜坐（金風颯颯群陰を醸す～）	藤田東湖	Ⅱ巻	27
花月吟（花屋琴を弾ず～）	藤野君山	愛吟集	27
新天草洋（雲か山か呉か越か～）	藤野君山	愛吟集	21
宝船（寿海波平かにして紅旭鮮なり～）	藤野君山	慶弔	5
茶道吟（花をのみ待つらむ人に山里の～）	藤原家隆・外	愛吟集	90
ありし世に「新古今集より」（ありし世に～）	藤原兼房	慶弔	80
家に花五十首歌よませ侍りける時（昔たれ～）	藤原良経	和歌上巻	150
寛喜元年女御入内屏風（風そよぐ～）	藤原家隆	和歌上巻	162
七月六日たなばたの心を～（いつしかと～）	藤原兼輔朝臣	俳句・俳文他	84
守覚法親王の五十首歌に（しもまよふ～）	藤原定家	和歌上巻	168
「三夕の歌」見わたせば（見わたせば花も紅葉も～）	藤原定家	朗詠集	46
「三夕の歌」見わたせば（見わたせば花も紅葉も～）	藤原定家	朗詠集	46
「三夕の歌」見わたせば（見わたせば花も紅葉も～）	藤原定家	和歌上巻	166
「三夕の歌」見わたせば（見わたせば花も紅葉も～）	藤原定家	和歌上巻	166
山居（青山高く聳ゆ白雲の辺～）	藤原惺窩	Ⅰ巻	10
「新古今集より」玉ゆらの（玉ゆらの露も涙～）	藤原定家	慶弔	66
百首歌たてまつりし時（駒とめて～）	藤原定家	朗詠集	48
百首歌たてまつりし時（駒とめて～）	藤原定家	和歌上巻	170
守覚法親王家に～（たちかえり又もきて見ん～）	藤原俊成	和歌上巻	136
百首歌奉りける時、秋の歌とて～（夕されば～）	藤原俊成	和歌上巻	134
春の山（昔たれ～）	藤原良経	朗詠集	42
立春の心を詠み侍りける（み吉野は～）	藤原良経	和歌上巻	148
銀婚式（二十五年清福多し～）	古川松梁	慶弔	32
失題（才子元来多く事を過る～）	古荘嘉門	Ⅱ巻	56
零丁洋を過ぐ（辛苦漕逢～）	文 天祥	Ⅱ巻	176
【～】			
赤い椿（赤い椿～）	碧 梧桐	俳句・俳文他	12
【ほ】			

雪梅（梅有りて雪無ければ精神ならず～）	方 岳	Ⅱ 卷	151
海南行（人生五十～）	細川頼之	Ⅱ 卷	5
【ま】			
向日葵は（向日葵は～）	前田夕暮	和歌下巻	108
いくたびも（いくたびも～）	正岡子規	俳句・俳文他	47
鶏頭の（鶏頭の十四五本も～）	正岡子規	俳句・俳文他	38
夕顔の（夕顔の～）	正岡子規	和歌下巻	76
行く我に（行く我に～）	正岡子規	俳句・俳文他	36
をととひの（をととひの～）	正岡子規	俳句・俳文他	39
柿くへば（柿くへば鐘が鳴るなり～）	正岡子規	俳句・俳文他	37
くれないの（くれないの二尺のびたる薔薇の～）	正岡子規	和歌下巻	74
児を弔う（夙に阿兄に学んで好んで篇を手にする～）	町田鳳陽	慶弔	72
荒海や	松尾芭蕉	朗詠集	101
奥州高館にて（夏草や～）	松尾芭蕉	朗詠集	103
銀河の序（越後の国出雲崎といふ～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	76
此道や（此道や行人なしに秋の暮～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	30
花の雲（花の雲～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	3
蛤の（蛤の～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	26
「おくのほそ道」より平泉	松尾芭蕉	俳句・俳文他	68
「おくのほそ道」より平泉	松尾芭蕉	俳句・俳文他	68
古池や（古池や～）	松尾芭蕉	朗詠集	100
古池や（古池や～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	2
「おくのほそ道より」最上川（最上川は～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	72
「おくのほそ道より」最上川（最上川は～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	72
物いへば（物いへば～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	27
閑かさや（閑かさや閑かさや岩にしみ入る～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	16
閑かさや（閑かさや閑かさや岩にしみ入る～）	松尾芭蕉	朗詠集	102
「野ざらし紀行より」旅立ち	松尾芭蕉	俳句・俳文他	60
「笈の小文より」旅立ちの一節（百骸九竅の～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	64
旅に病んで（旅に病んで夢は枯野をかけ廻る～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	44
塚も動け（塚も動け我泣く声は秋の風～）	松尾芭蕉	朗詠集	104

塚も動け（塚も動け我泣く声は秋の風～）	松尾芭蕉	俳句・俳文他	24
石童丸（麓の母を案じつつ～）	松口月城	愛吟集	86
華甲を祝す（華甲躰り来って～）	松口月城	慶弔	34
結婚を祝す（婦と為り夫と為る～）	松口月城	慶弔	26
古希を寿ぐ	松口月城	慶弔	35
静御前（よしのやま みねのしらゆき ふみわけて～）	松口月城	愛吟集	19
松竹梅（寿福愈開く松竹梅～）	松口月城	愛吟集	9
新築を賀す（建築功成りて新屋香ばし～）	松口月城	慶弔	27
送別（今夜同人祖筵を催す～）	松口月城	慶弔	59
曾我兄弟（富士の山風雨を交えて吹く～）	松口月城	愛吟集	79
鉢の木（駒とめて～）	松口月城	愛吟集	83
稗月の歌（屋島之浜～）	松口月城	愛吟集	23
米寿を賀す（延齡～）	松口月城	慶弔	37
名鎗日本号（美酒元来吾が好む所～）	松口月城	愛吟集	18
喜寿を賀す（七十七齡～）	松口月城	慶弔	36
感懐（目に看る年年～）	松平春嶽	Ⅲ巻	31
【み】			
夏日偶成（午倦書を抛って～）	三浦英蘭	Ⅰ巻	36
現身（春はいま空のながめにあらはるゝ～）	三木露風	朗詠集	134
磯浜望洋楼に登る（夜登る百尺～）	三島中洲	Ⅰ巻	33
月夜荒城の曲を聞く（春高樓の花の宴～）	水野豊洲	愛吟集	36
雑詩（防秋復た返らず～）	皆川淇園	Ⅰ巻	56
伊豆の海（箱根路を～）	源 實朝	朗詠集	44
伊豆の海（箱根路を～）	源 實朝	朗詠集	44
はこねにまうづとて（箱根路を～）	源 実朝	和歌上巻	154
はこねにまうづとて（箱根路を～）	源 実朝	和歌上巻	154
屏風に（わが宿の～）	源 順	和歌上巻	86
師賢朝臣の梅津の山里に～（夕されば～）	源 経信	和歌上巻	114
障子の絵に～（ふるさとはちるもみぢばに～）	源 俊頼	和歌上巻	118
夏月をよめる（にはの面はまだかわかぬに～）	源 頼政	朗詠集	32
夏月をよめる（にはの面はまだかわかぬに～）	源 頼政	和歌上巻	120

平定文が家歌合に～（春立つといふばかり～）	壬生忠岑	和歌上巻	76
雨ニモマケズ（雨ニモマケズ～）	宮沢賢治	俳句・俳文他	118
鶯のうへ（あはれ花びらながれ～）	三好達治	朗詠集	131
【む】			
送別の詩（楊柳青青として地に著いて垂れ～）	無名氏	慶弔	53
無題（落花粉粉～）	村上佛山	Ⅲ巻	85
橋上月に立つ（首を低るれば～）	村上佛山	Ⅰ巻	79
早くより童友だちに～（めぐりあひて～）	紫式部	和歌上巻	108
「新古今集より」曇りなく（曇りなく千歳に～）	紫式部	慶弔	28
【め】			
天（あさみどり澄み渡りたる大空の～）	明治天皇御製	朗詠集	66
日（さしのぼる～）	明治天皇御製	朗詠集	68
日（さしのぼる～）	明治天皇御製	朗詠集	68
【も】			
春暁（春眠暁を覚えず～）	猛 浩然	Ⅰ巻	117
桜花三百首「あらたまの」（あらたまの～）	本居宣長	和歌下巻	28
山ざくら（敷島の～）	本居宣長	朗詠集	50
山ざくら（敷島の～）	本居宣長	和歌下巻	26
桜花三百首「日ぐらしに」	本居宣長	和歌下巻	30
桜花三百首「日ぐらしに」	本居宣長	和歌下巻	30
小楠公（乃父の訓は骨に銘じ～）	元田東野	Ⅱ巻	105
中庸（勇力の男児は勇力に斃れ～）	元田東野	Ⅱ巻	49
哀悼の詩（百歳の人生～）	本宮三香	慶弔	76
感有り（徳義人情地を払って空し～）	本宮三香	愛吟集	6
礎を聞く（砧声断続～）	本宮三香	愛吟集	63
金婚を祝す（鴛鴦一たび～）	本宮三香	慶弔	33
九段の桜（靖国の宮に御霊は鎮まるも～）	本宮三香	愛吟集	10
四海波（四海波恬かにして～）	本宮三香	慶弔	21
小楠公の母（南朝の烈婦姓は楠木～）	本宮三香	愛吟集	33
梅花の詩（五弁花開いて～）	本宮三香	愛吟集	29
初夢（波静かに亀遊ぶ～）	本宮三香	慶弔	3

十団子も（十団子も小粒になりぬ秋の風～）	森川許六	俳句・俳文他	28
岐阜竹枝（郭を環りて～）	森 春濤	I 卷	29
【や】			
八幡公（結髪軍に従って～）	頼 山陽	II 卷	19
子等を思ふ歌の反歌（銀も金も玉も～）	山上憶良	朗詠集	16
子等を思ふ歌一首（瓜食めば～）	山上憶良	朗詠集	94
子等を思ふ歌一首（瓜食めば～）	山上憶良	和歌上卷	28
散歩（散歩流水に沿う～）	梁川紅蘭	I 卷	62
常盤孤を抱くの因（雪は笠檐に灑いで風袂を～）	梁川星巖	II 卷	29
芳野（今来古往～）	梁川星巖	II 卷	30
老泣（老泣声無く～）	梁川星巖	I 卷	23
秋夕琵琶湖に泛ぶ（湖北湖南暮色濃やかなり～）	梁田蛻巖	III 卷	9
山中の月（驚き見る東山～）	藪 孤山	III 卷	10
富士（晴れてよし～）	山岡鐵舟	朗詠集	64
富士（晴れてよし～）	山岡鐵舟	和歌下卷	66
富士（晴れてよし～）	山岡鐵舟	和歌下卷	66
子和の参州に～（唱うるを休めよ陽関～）	山縣周南	II 卷	12
子和の参州に～（唱うるを休めよ陽関～）	山縣周南	慶弔	56
和歌の題を～（昨夜～）	山縣周南	I 卷	38
海に出て（海に出て～）	山口誓子	俳句・俳文他	51
目には青葉（目には青葉～）	山口素堂	俳句・俳文他	14
感有り（坐るに憶う天公の～）	山崎闇齋	II 卷	9
沈痾の時の歌一首（士やも空しかるべき～）	山上憶良	和歌上卷	32
病に沈みし時の歌（士やも～）	山上憶良	朗詠集	14
山部宿禰～（天地の～）	山部赤人	和歌上卷	34
神亀元年～（若の浦に潮満ち来れば潟をなみ～）	山部赤人	和歌上卷	38
不盡の山を望める歌の反歌（田兒の浦ゆ～）	山部赤人	朗詠集	18
不盡の山を望める歌の反歌（田兒の浦ゆ～）	山部赤人	朗詠集	18
心に太陽を持って（心に太陽を持って～）	山本有三	俳句・俳文他	123
【よ】			
折楊柳（水辺の楊柳麴塵の糸～）	楊 巨源	III 卷	127

折楊柳（水辺の楊柳麴塵の糸～）	楊 巨源	慶弔	48
失題（神知靈覚湧いて泉の如し～）	横井小楠	Ⅱ卷	40
「恋衣」より海恋し（海恋し～）	与謝野晶子	和歌下巻	98
「恋衣」より海恋し（海恋し潮の遠鳴り～）	与謝野晶子	和歌下巻	96
「恋衣」より海恋し（海恋し潮の遠鳴り～）	与謝野晶子	和歌下巻	96
やは肌の（やは肌の～）	与謝野晶子	和歌下巻	100
われ男の子（われ男の子～）	与謝野鉄幹	和歌下巻	84
春景（菜の花や月は東に日は西に～）	與謝蕪村	朗詠集	105
さみだれや（さみだれや大河を前に～）	与謝蕪村	俳句・俳文他	18
鳥羽殿へ（鳥羽殿へ鳥羽殿へ五六騎いそぐ～）	与謝蕪村	俳句・俳文他	33
菜の花や（菜の花や月は東に日は西に～）	与謝蕪村	俳句・俳文他	8
春の海（春の海ひねもすのたり～）	與謝蕪村	朗詠集	106
春の海（春の海ひねもすのたり～）	與謝蕪村	俳句・俳文他	7
葵祭（地に落ちし～）	吉井 勇	和歌下巻	140
武蔵の野邊（身はたとひ～）	吉田松陰	朗詠集	60
安政六年十月廿日書簡（親思ふ～）	吉田松陰	朗詠集	58
安政六年十月廿日書簡（親思ふ～）	吉田松陰	朗詠集	58
辞世（吾今国の為に死す～）	吉田松陰	Ⅱ卷	62
新潟に宿す（雪を排し来たって～）	吉田松陰	Ⅰ卷	74
非常之變に立到り申し候（親思ふ～）	吉田松陰	和歌下巻	46
非常之變に立到り申し候（親思ふ～）	吉田松陰	和歌下巻	46
五節の舞姫を見て詠める（天つ風～）	良岑宗貞	和歌上巻	64
舟由良港に至る（首を回らせば蒼茫たり～）	吉村虎太郎	Ⅱ卷	36
鳳闕を拝す（山河襟帯～）	吉田松陰	Ⅲ卷	82
身はたとひ（身はたとひ～）	吉田松陰	和歌下巻	48
「古今集より」限りなき（限りなき雲居の～）	読人知らず	慶弔	62
【ら】			
芳野に遊ぶ（万人酔を買って～）	頼 杏坪	Ⅱ卷	25
江都客裡雑詩（八百八街宵月明らかなり～）	頼 杏坪	Ⅱ卷	24
天草洋に泊す（雲か山か～）	頼 山陽	Ⅱ卷	75
冑山の歌（冑山昨我を送り～）	頼 山陽	Ⅱ卷	77

後本能寺（宴已み高閣～）	頼 山陽	愛吟集	42
静御前（工藤の銅拍秩父の鼓～）	頼 山陽	Ⅱ巻	98
述懐（十有三春秋～）	頼 山陽	Ⅱ巻	73
侍輿の歌（余芸に到りて留まること～）	頼 山陽	Ⅱ巻	92
炊煙起る（煙未だ浮かばず天皇愁いたもう～）	頼 山陽	Ⅲ巻	72
攝州路上（酒家の紛壁晴波に映ず～）	頼 山陽	Ⅲ巻	13
前兵児の謡（衣は肝に至り袖腕に至る～）	頼 山陽	Ⅱ巻	79
筑後河を下り～（文政の元十一月～）	頼 山陽	Ⅲ巻	65
中秋無月母に侍す（此の夜を同うせざること～）	頼 山陽	Ⅱ巻	21
楠河州の墳に謁して作有り（東海の大魚～）	頼 山陽	Ⅲ巻	58
楠公子に訣るるの図（海甸の陰風～）	頼 山陽	Ⅱ巻	22
母を憶う（秋風～）	頼 山陽	Ⅰ巻	39
母を奉じて嵐山に遊ぶ（嵐山に到らざること～）	頼 山陽	Ⅱ巻	23
母を送る路上の短歌（東風に～）	頼 山陽	Ⅱ巻	89
不識庵機山を撃つるの図に題す（鞭声肅肅～）	頼 山陽	Ⅰ巻	20
舟大垣を発して桑名に赴く（蘇水遙遙～）	頼 山陽	Ⅱ巻	20
本能寺（本能寺～）	頼 山陽	Ⅰ巻	68
蒙古来（筑海の颯気～）	頼 山陽	Ⅱ巻	95
獄中作（雲を排し手ずから～）	頼 三樹三郎	Ⅲ巻	51
函嶺を過ぐ（当年の意気～）	頼 三樹三郎	Ⅲ巻	17
易水の送別（此の地～）	駱 賓王	Ⅰ巻	116
【り】			
春行興を寄す（宜陽城下草萋萋～）	李 華	Ⅰ巻	101
児に示す（死し去れば本知る万事空しきを～）	陸 游	Ⅰ巻	111
春雨（春陰雨を成し易く～）	陸 游	Ⅲ巻	151
夜雨北に寄す（君帰期を問えども～）	李 商隱	Ⅰ巻	106
農を憫む（禾を鋤きて～）	李 紳	Ⅱ巻	160
烏夜啼（黄雲城辺～）	李 白	Ⅲ巻	180
越中懐古（越王勾踐～）	李 白	Ⅲ巻	120
鸚鵡州（鸚鵡来たって過ぐ～）	李 白	Ⅲ巻	156
汪淪に贈る（李白舟に乗りて～）	李 白	慶弔	45

客中行（蘭陵の美酒～）	李 白	Ⅱ 卷	140
峨眉山月の歌（峨眉山月～）	李 白	Ⅰ 卷	96
金陵の鳳凰台に登る（鳳凰台上～）	李 白	Ⅲ 卷	154
荊門を渡り送別す（遠く荊門の外に渡り～）	李 白	慶弔	46
月下独酌（花間一壺の酒～）	李 白	Ⅱ 卷	185
黄鶴楼にて孟浩然が～（故人西のかた黄鶴楼～）	李 白	Ⅲ 卷	122
江上吟（木蘭の樵沙棠の舟～）	李 白	Ⅱ 卷	182
山中間答（余に問う何の意あって～）	李 白	Ⅱ 卷	141
山中にて幽人と対酌す（兩人対酌して山花く～）	李 白	Ⅲ 卷	123
秋浦の歌（白髪三千丈～）	李 白	Ⅲ 卷	145
春夜洛城に笛を聞く（誰が家の玉笛か暗に～）	李 白	Ⅱ 卷	138
静夜思（牀前月光を看る～）	李 白	Ⅰ 卷	119
蘇台覽古（旧苑の荒台楊柳新たなり～）	李 白	Ⅲ 卷	121
早に白帝城を發す（朝に辞す白帝彩雲の間～）	李 白	Ⅱ 卷	136
天門山を望む（天門中斷して楚江開く～）	李 白	Ⅱ 卷	142
洞庭に遊ぶ（洞庭西に望めば楚江分かる～）	李 白	Ⅱ 卷	139
友人を送る（青山～）	李 白	Ⅰ 卷	152
廬山の瀑布を望む（日は香炉を照らして～）	李 白	Ⅱ 卷	137
楊柳枝詞（煬帝の行宮～）	劉 禹錫	Ⅰ 卷	104
江雪（千山鳥飛び絶え万径～）	柳 宗元	Ⅲ 卷	146
柳州の城楼に～（城上の高樓～）	柳 宗元	Ⅰ 卷	136
白頭を悲しむ翁に代る（洛陽城東～）	劉 廷芝	Ⅲ 卷	168
同じころ（世の中に～）	良 寛	朗詠集	54
同じころ（世の中に～）	良 寛	和歌下卷	42
憶ふ（草枕夜ごとに変わる～）	良 寛	和歌下卷	40
このごろ出雲崎にて（たらちねの母が～）	良 寛	和歌下卷	44
露の世は	良 寛	和歌下卷	38
時に憩う（薪を担いて翠岑を下る～）	良 寛	Ⅲ 卷	42
なにごとも（なにごともみな昔とぞなりに～）	良 寛	慶弔	84
半夜（首を回らせば～）	良 寛	Ⅱ 卷	18
無心（花は無心にして～）	良 寛	Ⅲ 卷	99

無欲（欲無ければ～）	良 寛	I 卷	66
山路（月よみの～）	良 寛	朗詠集	52
古別離（別れんと欲して～）	呂 温	慶弔	51
自詠（独り高楼に上って～）	呂 洞賓	愛吟集	107
山園小梅（衆芳搖落して独り暄妍～）	林 逋	III 卷	164
【れ】			
嘉元百首歌に、山家を（庵近きつま木の道や～）	冷泉為相	和歌下卷	12
題しらず（いかにして～）	冷泉為相	和歌下卷	10
長安春望（東風雨を吹いて青山を過ぐ～）	盧 綸	I 卷	134
【わ】			
暮坂峠（乾きたる落葉のなかに栗の實を～）	若山牧水	俳句・俳文他	114
心の鐘（今日もまた心の鐘を～）	若山牧水	朗詠集	82
心の鉦（今日もまた心の鉦を～）	若山牧水	和歌下卷	124
小諸懐古園にて（かたはらに～）	若山牧水	和歌下卷	120
酒（しらたまの菌に沁みとほる～）	若山牧水	朗詠集	86
酒（しらたまの菌に沁みとほる～）	若山牧水	和歌下卷	122
白鳥は（白鳥はかなしからずや空の青～）	若山牧水	朗詠集	84
白鳥は（白鳥はかなしからずや空の青～）	若山牧水	和歌下卷	118
中國を巡りて（幾山河超えさり行かば～）	若山牧水	朗詠集	80
中國を巡りて（幾山河超えさり行かば～）	若山牧水	和歌下卷	116
夢（夢ならで～）	若山牧水	和歌下卷	126
難波津に（難波津に咲くや木の花冬ごもり～）	王 仁	和歌上卷	4
今様（君が晴衣のみ…。他4題）		慶弔	30
古詩（明月皎として～）	（作者不詳）	I 卷	169
さくらの歌（さくらさくら 弥生の空は～）	素性・外	愛吟集	94
書懷（一葦纔に西すれば～）	（作者不詳）	II 卷	83
書懷（人生元長からず～）	（作者不詳）	III 卷	87
大正天皇御製（一） 歳朝皇子に示す		I 卷	2
大正天皇御製（二） 宝刀		I 卷	3
多摩川（多摩川にさらす手作りさらさらに～）	（作者未詳）	朗詠集	20
勅勒の歌（勅勒の川陰山の下～）	無氏名	愛吟集	103

道灌蓑を借るの図に題す（孤鞍雨を衝いて～）	（作者不詳）	Ⅱ巻	47
なき数に入る名をぞ～（鏃を以って筆に代え～）		Ⅱ巻	106
夏（うの花のにはほふ垣根に～）		愛吟集	97
武蔵の国の歌（多摩川に～）	作者不詳	和歌上巻	48
「新古今集より」わが君は（わが君は～）	読人知らず	慶弔	29